



五所川原市の文化財ガイドブック

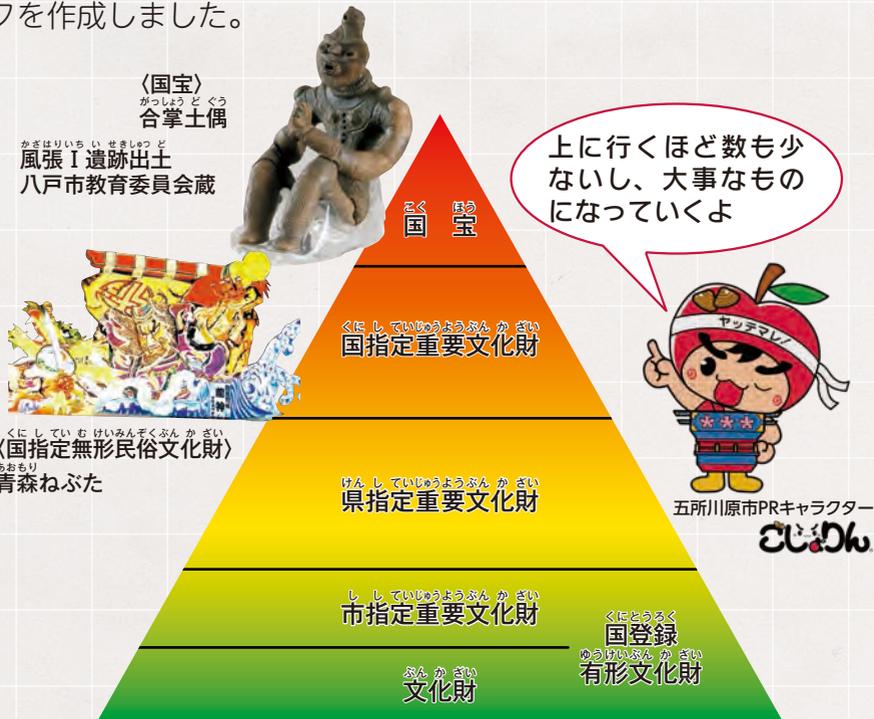


はじめに

「文化財」という言葉を聞いて、皆さんはどのようなものを思い浮かべますか？立派なお城ですか？きれいな仏像ですか？そういったものもありますが、昔の人々が暮らしていた跡などの史跡や、国土の成り立ちを知ることができる地層などの天然記念物も文化財の仲間です。他にもまだまだ種類があります。

文化財は、先人たちが守り、受け継いできた地域の“宝”です。私たちの五所川原市にはたくさんの文化財があり、今を生きる私たちは、先人たちと同じように、しっかりと将来に引き継いでいく責任があります。

市内の文化財を皆さんが知ることによって、地域に誇りを持ち、文化財を大切にしてくれることを期待して、文化財を紹介するガイドブックを作成しました。

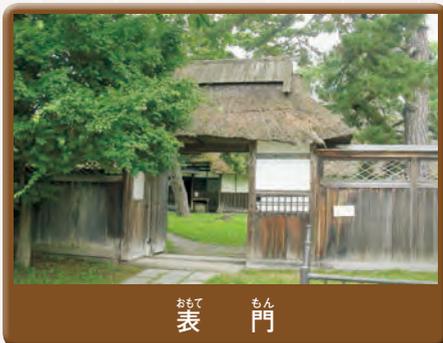


有形文化財

有形文化財とは、建造物、絵画、彫刻のように形がある文化財のことです。今までに行ったことがある場所や見たことがあるものはいくつあるかな？



きゅうひらやま けしゅうたく みなと
旧平山家住宅（市内湊）



おもて もん
表門

旧平山家は、約250年前に建てられました。当時農家では禁止されていた門構えが、弘前藩に特別に許されて造られました。市内では一番古い建物で、ほぼ建てられた当時の姿のまま残っている貴重な古民家です。



くすみ けしゅうたく もつ こざわ
楠美家住宅（市内持子沢）



こやく
小屋組み（屋根の部分）

楠美家は、明治25年ころに秋田県から材木を買い、秋田の大工さんに建ててもらいました。そのため、小屋組みに秋田地方の特徴が見られます。もともとは高野に建てられていましたが、平成18年に今の場所に移築されました。



ゆうけいぶん か ざい
有形文化財



だざいおさむね きねんかん しやようかん かな ぎちやうあさひ やま
太宰治記念館「斜陽館」(市内金木町朝日山)



しやう わ
昭和のはじめころの斜陽館

斜陽館は明治40年に太宰治の父、津島源右衛門が建てた豪邸です。この家を建てるために必要だった金額は、約4万円(現在の金額で数億円)になります。

津軽地方には同じ時期に建てられた建造物で現在も残っているものが他にはないため、とても貴重な文化財です。

ぜんぜん
変わってないね!





2階の洋間

がいけん じゆんわふう
外見は純和風ですが、中には
当時では珍しい洋間やおしゃれ
な洋風階段のほかに、シャンデ
リアもあります。



洋風階段



けんせつちゆう
建設中の斜陽館（明治時代）

斜陽館の1階と2階を合わせた面積は約1,000㎡！50mプールくらいの広さがあります。部屋の数^くは19室、蔵^{くら}は3つもあり、高さ約4mのレンガの塀^{へい}で囲^{かこ}まれています。平成8年に旧金木町が買いとるまでは、旅館としても使われていました。



太宰治の父
津島源右衛門

私が建てました！

きぞくいんぎいん
津島源右衛門は貴族院議員や
しゅうぎいんぎいん
衆議院議員をつとめたとても
えらい人だったんだね





ゆうけいぶん か ざい 有形文化財



ほんしやう いいつめ
梵鐘（市内飯詰）

この鐘は青銅製で正徳六年（1716年）に京都で造られました。日本海を北上し十三湊から長円寺へ運ばれ、地域の人々に守られてきました。もうひとつ鐘がありましたが運ぶ途中に嵐に逢い、十三湖沖に船が沈没してとうとう引き上げられませんでした。それ以来、この鐘の音は沈んだ鐘を慕うように鳴り響く...という伝説が伝えられています。



あいうちれんげあん いたび
相内蓮華庵の板碑（市内相内）



いいつめはちまんぐうほんでん
飯詰八幡宮本殿（市内飯詰）

江戸時代のはじめころに造られた神社です。小さいですがバランスがよく取れた建物です。



えんぶん
延文二年の板碑

相内蓮華庵には亡くなった人を供養する中世の板碑が5基残

されています。そのひとつには延文二年（1357年）の年号が見えます。鱒ヶ沢町や深浦町にも同じ様式のものがあり、当時十三湖一带をおさめていた安藤氏の勢力が今の深浦町まで広がっていたことを示しています。

とうろくゆうけいぶん か ざい 登録有形文化財

登録有形文化財は、^{がいかん}外観を大きく変えなければホテルやレストラン、資料館として自由に活用することができます。市内には、このような文化財が3件あります。



あべけいぶたく はのきざわ
阿部家住宅（市内羽野木沢）



きやうにしざわ けいぶたく かなぎちやうあさひやま
旧西沢家住宅（市内金木町朝日山）

阿部家は通称「^{つうしやう}大阿部」と呼ばれ、^{おほあべ}五所川原の^{おほしめし}大地主でした。建物は100年以上前に建てられ、^{げんざい}現在も阿部家の方々が住んでいます。

となりの^{どぞう}土蔵も一緒に、登録有形文化財に登録されました。



つがるてつどうきやうあしのこうえんえき
津軽鉄道旧芦野公園駅（市内金木町芦野）

^{しややうかん}斜陽館のとなりの旧西沢家は、^{しやうわ}昭和11年に建てられ、旅館や飲食店として使われていました。

登録有形文化財になるためには、建ててから50年以上経っていることが必要だよ。



芦野公園駅のとなりにある^{きつ}喫茶「^さ駅舎」は、最初は駅として使われていました。昭和5年に津軽鉄道が走り始めてからその^{すがた}まの姿で残っている建物はここだけです。

遺跡^{いせき}は日本全国に数多くありますが、この先も守っていく必要がある大事なものは、「史跡」として指定されます。指定されたあとは、壊されたり姿が変わらないように保存して、多くの人に知ってもらうように活用します。その中でも、「国指定史跡」として歴史の教科書に出てくる遺跡もたくさんあります。

ごしょがわらす えきかまあと
五所川原須恵器窯跡 (市内持子沢、原子、前田野目)

須恵器は、窯の中で1,000℃以上の高温で焼かれた青灰色をした焼物のことです。この技術は、朝鮮半島から日本に伝わりました。

五所川原須恵器窯跡は、前田野目川支流の斜面を利用して造られています。現在まで40基が確認されており、中でも保存状態が良い13基が国の史跡として指定されています。



はっくつ 発掘された窯跡



しつど 遺跡から出土した須恵器

この窯跡は
 日本で一番北に
 あるんだよ！
 すごいね！



山の斜面を利用して窯を作ります。炎が下から上へと昇っていくことを利用して、1,000℃以上まで温度を上げて焼きます。

1,000℃以上にするにはどのくらいの薪が必要かな？



窯の仕組み

窯跡では、平安時代中ごろの9世紀の終わりから10世紀にかけて須恵器が作られていました。窯跡は、場所によって大きく分けて4つのグループに分かれています。ここで作られた須恵器は青森県内はもちろんのこと、北は北海道全域、南は秋田県や、岩手県にまで流通していました。

かわくらしい かわらし ぞうそん
川倉賽の河原地蔵尊 (市内金木町川倉)



イタコで有名な下北半島の恐山と同じく、川倉賽の河原地蔵尊にもイタコがいます。また、お堂の中と外に約2,000体のお地蔵様がまつられています。これは、お幼くして亡くなった子どもたちを供養するためのものです。毎年旧暦の6月22日から24日に行われる例大祭の日には多くの人でにぎわいます。

と 十 さ 三 みなと 湊 い 遺 せき 跡



十三湊遺跡は十三湖西岸の十三にあります。ここは「奥州津輕十三湊」と呼ばれ、北日本を代表する港町として、広く知られていました。室町時代（今から約600年前）には「日之本將軍」と呼ばれた津輕の豪族、安藤氏がおり、北海道と京都を結ぶ日本海交易の拠点として、重要な役割を果たしていました。十三湊の発掘調査によって、人々の暮らしの跡や国内各地の焼物のほか、中国産や朝鮮半島産など外国の焼物もたくさん出土しており、非常に繁栄していたことがわかります。



室町時代の十三湊の様子を再現した絵です。北海道から来たアイヌの人が昆布や鮭を、朝鮮半島から来た商人が焼物売っています。



当時の十三湊の様子

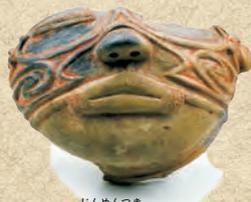
トピックス

そとめ やちい せき 五月女 菟 遺跡



お墓の様子

何に使ったのかな!



じんめんつき ■ 人面付土器 photo by T.ogawa

史跡として指定されていませんが、五月女菟遺跡は縄文時代の終わりごろの遺跡です。縄文人たちが大量の土器や石器を捨てた場所が見つかりました。左の写真の不思議なお面の土器もあります。さらに、粘土を盛ったお墓もたくさん見つかりました。その中には、埋葬された縄文人の骨が残っていたものもありました。

◆ みんぞくぶん か ざい 民俗文化財

民俗文化財は、人生の節目^{ふしめ}や季節ごとの行事をいう場合と、そのときに使う服や道具などをいう場合があります。どちらも普段^{ふだん}の生活を示し、その移り変わりをあらわします。ここでは五所川原市の民俗文化財を季節ごとに追ってみましょう！

初夏 田植え

嘉瀬^か奴^せ踊^{やっこおどり}は、嘉瀬に伝わる踊^{おど}りです。東北地方では田植えのときに、豊作^{ほうさく}を祈願^{きがん}して「田植え踊り」を踊る地域^{ちいき}がありました。嘉瀬^{げんざい}には現在もそれが残っています。嘉瀬奴踊は他の田植え踊りにはない動きがある珍しい踊り^{めづら}です。



嘉瀬奴踊 (市内金木町嘉瀬)



昭和30年ころの虫送り

田植え
あと



現在の虫送り

田植えが終わると、その年の豊作と健康を願って虫送りが行われます。木彫りの竜の頭に、稲わらの胴体^{いなか}で作られた「虫」を若者がかついで、囃子^{はやし}とともに村中をねり歩き、村はずれの一番高い木の枝に「虫」をかけます。昔は五所川原市周辺の各集落で行われていましたが、現在では少なくなりました。



あらうまおどり あざひやま
金木さなぶり荒馬踊 (市内金木町朝日山)



あいうち
相内の虫送り

あやつ 操ったことに感動した村人が、その姿を残そうとして踊りをつくり、虫送りに取り入れたと伝わっています。市浦地区の相内の虫送りは、昔ながらの虫送りを続けています。行列は〈山車—荒馬と馬追い二人—ハネト—囃子〉の順に進みます。えらそうにしていると、顔中に白い粉をぬられてしまいます。最後は「虫」を相内神明宮の松にかけます。

昔からお米が
産業の中心
だったんだね。
お米の豊作を願った
民俗文化財は
全国にもたくさん
あるよ。



金木地区と市浦地区
には、青森県指定民俗
文化財がそれぞれあり
ます。金木地区の荒馬
踊りはその昔、弘前藩
のお殿さまが村を訪れ、
帰るときに馬を見事に

◆ みんなぞくぶん か ざい 民俗文化財

夏まつり

五所川原の立佞武多は高さ20m以上、重さが16トンもありとても巨大！弘前の扇ねぶたや青森の人形ねぶたとも違う、明治の終わりころ作られていた立佞武多を今に伝えています。今では五所川原にかかせない夏の祭りとなっています。



平成27年にはブラジルのサンパウロのカーニバルに出陣、五所川原市の伝統文化が世界に紹介されたよ！



明治時代の立佞武多

現在



おんゐらう ぼんじゆほくと せい
陰陽 梵珠北斗星

サンパウロのカーニバル 会場の様子



かしまだいみょうしん じしんなます
鹿嶋大明神と地震鯨

撮影：仁尾 帯刀

お盆

江戸時代に入ると、
津軽平野^{つがるへいや}でとれるお
米が十三湊^{とさみなと}から関西
方面に運ばれていき
ました。十三の砂山^{とさすなやま}
踊り^{おど}は船唄^{ふなうた}から変わ
ったもので、関西方
面からの船乗り^{ふなの}たち
が十三湊に来たときに唄ったものが地元の人々に流行^{りゅうこう}し、盆踊りにな
ったと考えられています。

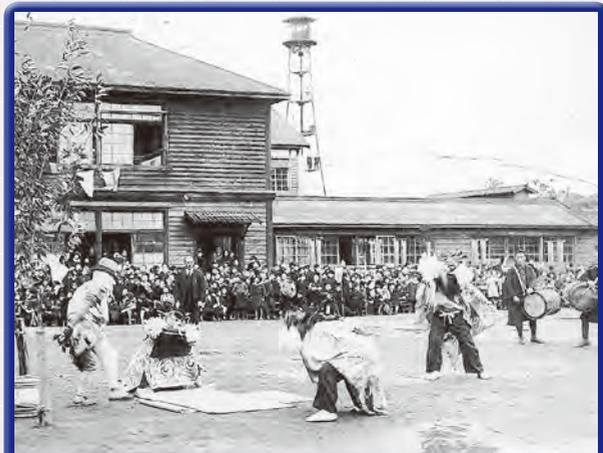


十三の砂山踊り（市内十三^{しゅうさん}）

お正月など

獅子踊り^{ししおど}は、祝いの席や正月など節目^{ふしめ}に踊られてきました。細かい違いはありますが津軽地方に広く見られます。もしかしたらみなさんも見かけたことや踊ったことがあるかもしれませんね。

そうやって、自分たちの次の世代に伝えていくことはとても重要です。



昭和15年ころの浅井獅子（鹿^{しか}）踊^{しょうわ}

てんねん きねんぶつ 天然記念物

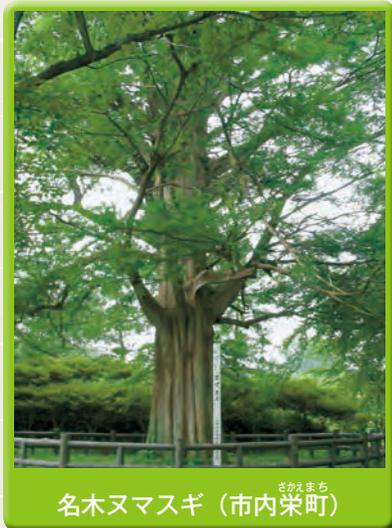
天然記念物は、動物、植物及び地質鉱物で、学術上価値の高いもののことです。「ニホンカモシカ」や北海道阿寒湖の「マリモ」などがそうです。これらを天然記念物に指定して、保護することが目的です。



ホロムイチゴ (市内長富)

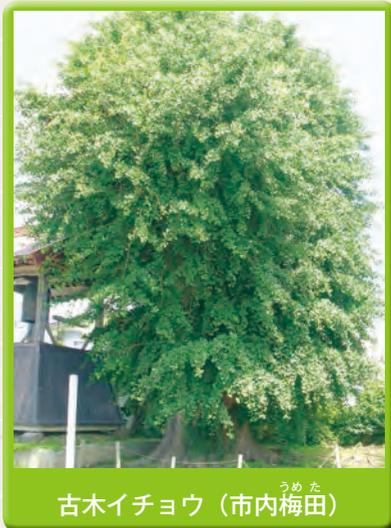
ホロムイチゴは北欧などの寒い地域では珍しくありませんが、青森県では昭和48年に発見されるまで記録がなく、貴重な植物として指定しています。

名木・古木は、市内にある木の中で樹齢が長く、大きくて立派な木を選んで指定しています。ここでは名木・古木から1本ずつ紹介します。



名木ヌマスギ (市内栄町)

名木 (めいぼく)・古木 (こぼく)



古木イチョウ (市内梅田)

五所川原市指定文化財一覧

五所川原地区

No	名 称	区 分	種 類	指 定・登 録 年 月 日	所 在 地
①	旧平山家住宅	国指定 重要文化財	建造物	昭和53年1月21日	五所川原市湊字千鳥144番地1
②	飯詰八幡宮本殿	県重宝	建造物	平成6年1月21日	五所川原市飯詰字福泉148番地1
③	楠美家住宅	市指定 文化財	建造物	平成12年11月2日	五所川原市持子沢隠川1695番地4
④	妙竜寺七面大明神宮殿	市指定 文化財	建造物	平成13年12月20日	五所川原市飯詰字福泉29番地
⑤	阿部家住宅	国登録 有形文化財	建造物	平成26年4月25日	五所川原市羽野木沢（個人宅）
⑥	梵鐘	県重宝	工芸品	昭和37年11月16日	五所川原市飯詰字福泉224番地 （長円寺）
⑦	毛内翁土功之碑	市指定 文化財	有 形	平成12年11月2日	五所川原市錦町1番地5 （久須志神社）
⑧	伊勢海利助追慕碑	市指定 文化財	有 形	平成12年11月2日	五所川原市錦町1番地5 （久須志神社）
⑨	五所川原須恵器窯跡	国指定史跡 名勝記念物	史 跡	平成16年9月30日	五所川原市持子沢字隠川1695番地2他
⑩	浅井獅子（鹿）踊	県指定無形 民俗文化財	民 俗	昭和37年1月12日	五所川原市浅井
⑪	虫送り	市指定 文化財	民 俗	平成4年6月8日	五所川原市
⑫	漆川獅子舞	市指定 文化財	民 俗	平成12年11月2日	五所川原市漆川
⑬	五所川原甚句	市指定 文化財	民 俗	平成13年12月20日	五所川原市
⑭	五所川原立佞武多	市指定 文化財	民 俗	平成22年12月22日	五所川原市（立佞武多の館）
⑮	ホロムイイチゴ	市指定 文化財	天 然 記念物	昭和50年8月27日	五所川原市長富（二ノ沢溜池内）
⑯	ヌマスギ	指定第1号 名木	名 木	昭和51年10月1日	五所川原市栄町（菊ヶ丘運動公園）
⑰	ツルマサキ	指定第2号 名木	名 木	昭和51年10月1日	個人宅
⑱	クロマツ	指定第4号 名木	名 木	昭和51年10月1日	五所川原市長富字鑑石無番地
⑲	ケヤキ	指定第6号 名木	名 木	昭和51年10月1日	五所川原市持子沢字笠野前357番地
⑳	シダレヤナギ	指定第7号 名木	名 木	昭和51年10月1日	五所川原市柳町（柳町児童公園）
㉑	イチヨウ	指定第9号 古木	古 木	昭和51年10月1日	五所川原市梅田字平野16番地（教円寺）
㉒	クロマツ	指定第10号 名木	名 木	平成元年11月30日	五所川原市沖飯詰字男鹿159番地

五所川原市指定文化財一覽

■金木地区

No	名 称	区 分	種 類	指 定・登 録 年 月 日	所 在 地
23	太宰治記念館「斜陽館」	国指定 重要文化財	建造物	平成16年12月10日	五所川原市金木町朝日山412番地1
24	旧西沢家住宅	国登録 有形文化財	建造物	平成20年3月7日	五所川原市金木町朝日山411番地5
25	津軽鉄道旧芦野公園駅	国登録 有形文化財	建造物	平成26年12月19日	五所川原市金木町芦野84番地171
26	川倉賽の河原地蔵尊	市指定 文化財	史 跡	昭和57年8月10日	五所川原市川倉七夕野426番地1
27	嘉瀬奴踊	県指定無形 民俗文化財	民 俗	昭和44年12月15日	五所川原市金木町嘉瀬
28	金木さなぶり荒馬踊	県指定無形 民俗文化財	民 俗	昭和56年9月26日	五所川原市金木町朝日山
29	金木町玉鹿石	県天然 記念物	天 然 記念物	昭和55年1月24日	五所川原市金木町喜良小田川園有林

■市浦地区

No	名 称	区 分	種 類	指 定・登 録 年 月 日	所 在 地
30	十三・湊迎寺の五輪塔	市指定 文化財	有 形	平成13年3月2日	五所川原市十三土佐1番地298 (市浦歴史民俗資料館)
31	相内・蓮華庵の板碑	市指定 文化財	有 形	平成13年3月2日	五所川原市相内(蓮華庵境内)
32	十三湊遺跡	国指定史跡 名勝記念物	史 跡	平成17年7月14日	五所川原市十三地内
33	相内の虫送り	県指定無形 民俗文化財	民 俗	平成23年4月6日	五所川原市相内
34	相内の坊様踊り	市指定 文化財	民 俗	平成14年2月28日	五所川原市相内
35	十三の砂山踊り	市指定 文化財	民 俗	平成14年2月28日	五所川原市十三
36	十三湖の白鳥	県天然 記念物	天 然 記念物	昭和35年3月26日	十三湖
37	磯松の一本松	市指定 文化財	天 然 記念物	平成13年3月2日	五所川原市磯松磯野54番地

- 発行年月日 平成27年3月23日
- 編集・発行 五所川原市教育委員会
- HPアドレス <http://www.city.goshogawara.lg.jp>
- 印刷所 有限会社 アート印刷

(C)五所川原市教育委員会